

社団法人私立大学情報教育協会
平成 21 年度第 3 回 CCC コミュニケーション関係学グループ運営委員会議事

I. 日 時： 平成 21 年 10 月 23 日(金)午後 0 時 45 分～午後 2 時

II. 場 所： 社団法人私立大学情報教育協会事務局会議室

III. 出席者： 阿部委員、中西委員
事務局：井端事務局長、山野上

IV. 検討事項：

1. コミュニケーション関係学における学士力の委員案確定について

委員より提案のあった原案を基に、学士力の詳細を検討を行った。まず、到達目標の 3 つの区分の設定について、教養としてのコミュニケーションが 1 と 2、専門レベルでのコミュニケーション関係学が 3 という枠組みで合意を得た。次に各到達目標について議論したところ次のような結論に達した。

(1) 到達目標 1 について

- ・ 到達目標では、基本的なコミュニケーションの枠組みを理解するため、後に応用で取り上げられる組織、社会、文化について文言を追加し、「意味を理解できる」から「役割・仕組みを理解できる」に変更する。
- ・ コアカリキュラムのイメージについては、枠組みを学ぶため、より広い意味でコミュニケーション概論とする。
- ・ 到達度について、原案では「社会事象を・・・説明できる」とあったが、社会事象を細分化し、対人関係、集団・組織、社会・文化事象の三つの視点で理解できることとする。
- ・ 到達度の測定方法について、基本的な知識を問うものであるため、筆記試験により確認することとする。

(2) 到達目標 2 について

- ・ ここでは、実践的なスキルを得ることを目的とするため、コアカリキュラムのイメージとしては、ロールプレイング、プレゼンテーション、スピーチ／ディベート、グループディスカッションを取り上げる。
- ・ 到達度について、原案では、「・・・コミュニケーションの違いを説明できる」とあったが、実践力を問うため、「・・・コミュニケーションスキルを実践できる」とする。
- ・ 到達度の測定方法について、実践力を測定するため、学生のコミュニケーション

を観察し、その結果を発表や討論により確認することとする。

(3) 到達目標3について

- ・ 到達目標について、ここでは具体的な理解と分析が必要になるため、「コミュニケーションに関する様々な事象を理論的に説明し、分析できることができる」とする。
- ・ コアカリキュラムのイメージについて、メディアとマスコミが混同される恐れがあることから、別々に項立てする。その他、言語・非言語、対人、集団・組織、異文化間、コミュニケーション・メディアの調査法などを取り入れることとする。
- ・ 到達度について、専門分野として「対人、集団、組織、異文化間におけるコミュニケーションの特性を説明できる」、「コミュニケーションにおけるメディアの機能・特徴を説明できる」を追加する。また、原案の「メディアから発信される情報を批判的に読み解く」について、専門的な内容の情報について真贋性を読み解くことは難しいのではないかという意見があったが、あくまでメディアリテラシーの範囲で客観的、批判的に読み解くことが求められることから、文言を若干修正しそのまま残すこととなった。
- ・ 到達度の測定方法について、基本的には筆記試験、演習、事例研究が中心となるが、方法論についてはフィールドリサーチ、メディア制作実習を通して確認することとする。

2. 今後の進め方

今回委員会で確定した案をサイバーFD 研究員に意見伺いをし、その反応を踏まえて次回委員会で再度修正を行うこととなった。なお、次回委員会は11月7日(土)午前10時より開催することとなった。